

目的 夏の薄物製品は着用時期，感触点から洗濯の手軽な家庭洗濯が要望される。そこで家庭洗濯を行った時の形態性能におよぼす影響を知り，ウオッシュャブルに適した縫製品作りをするための基礎資料を得るために，洗濯による収縮 形態変化 パッカリングの試験結果から，その適応性についで検討した。

方法 予備実験から素材の異なる表布3種，裏布4種を選び縮充後，表布裏布を1組として縫い合せ試料とした。縫製条件として針目は大(10針_{3cm間}) 中(12針_{3cm間}) 小(14針_{3cm間})の3通りとした。次に洗濯による形態性能を見るために，試料を手洗い，電気洗濯機法によつて，洗濯後，収縮率 形態変化 パッカリングの試験結果から検討した。

- 結果 1. ウール素材についでは，縮充前平均4.1% 縮充後平均20%の収縮率があるゆへ，縫製前の縮充は重要であることがわかつた。
2. 洗濯の違いによる収縮率は表布ウール素材，ピッチ中目で電気洗濯機法平均2.2%に対し，手洗い法平均1.1%と手洗いが優れている。表素材アセテート，ポリエステルについでは差がつけがたり。
- 3 裏布素材と収縮率の関係はポリエステル素材が最も良く次いでアセテート，キュプラの順であり，レーヨン素材は最も悪い結果であつた。
4. 形態変化に対しては20%までの収縮率はアイロン仕上げにより調整可能で，着装上の影響が少りものと思われる。